

これがオススメ! 読み聞かせ本

中・高学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

20号では、このコーナーで韓国のお盆を紹介しました。今回は日本のお盆です。お盆に「ご先祖様を祭る」とは、一体どういうことなのでしょう。

最近では核家族が進み、家族の「死」が日常からかけ離れたものになっていることが多いようです。そのような中で、どんな「ご先祖様」が昔生きていて、自分に繋がっているのか、よく興味のあることですね。

この物語は、毎年夏に、遠くに住んでいるおじいちゃんから「盆まねき」の手紙が届くところから始まります。

『盆まねき』というのは、八月のお盆の三日間に、「ごちそうを用意して親戚の人たちを家にまねいて、みんなで「ご先祖さまの供養をする」という行事です。」

（本文抜粋）
そこで主人公の「なっちゃん」



盆まねき

富安陽子・作
高橋和枝・絵
偕成社

がいろんな体験をするのです。読み進めていくと、最後まで読まずにはいられないほどユニークな体験がたくさん出てきます。特に、大人の登場人物が魅力的で、こんな大人が私たちの周りにいたらどれほど日常が活気つくことかと思わされるのです。子どもたちに読み語りながら、読み手も子どもたちも、想像を全開していくことでしょうか。読み手の私も、「フミおばちゃん」のあの『手』を、いつか家族のために使わせてもらおうぞ!と心に決めていたのですから。

最後の章では、作者のおじさんの事が書かれています。これは実話だそうです。少し切なくもあり、印象に残る話です。私は、この話と関連つけて『すみれ島』（今西祐行・作／松永禎郎・絵／偕成社）も読み語りました。